

主要高速道路のサービスエリア・パーキングエリア(SAPA)におけるバリアフリー調査の実施および成果の活用

一般社団法人 オリパラ KAIGO Next Action
〒150-0036 東京都渋谷区南平台町6番11号

助成事業の概要

「ゆめ旅 KAIGO ! 2020」プロジェクト（以下、プロジェクト）のひとつとして、国内にある社会インフラや設備等のバリアフリー調査とその結果活用がある。そこで、要介護高齢者や障害者等、移動に何らかの困難を伴う人の外出や旅行の際の重要な拠点として機能する「高速道路のサービスエリア、パーキングエリア（以下、SAPA）」について、各拠点のバリアフリーその他の使い勝手を、ユーザーである当事者やサポートする側（トラベルヘルパー等）の視点から調査し、結果と考察をまとめ、関係者に広く伝えることで SAPA の機能・サービスの一層の強化に貢献することがこの事業の目的である。具体的には、関係者による現地調査およびその成果の考察、発表、そして報告書の作成等を以下の通り行った。

- (1) プロジェクトメンバーによる打ち合わせ
実施 4月16日
- (2) メンバーとトラベルヘルパーとの意見交換会 5月21日
- (3) 現地調査に関して打ち合わせ（計2回）
7月11日、9月12日
- (4) 現地調査（近畿エリア） 9月28～29日
- (5) 「ゆめ旅 KAIGO ! フォーラム」発表用報告打ち合わせ 10月13日
- (6) 「ゆめ旅 KAIGO ! フォーラム」にて発表
10月27日
- (7) 事業報告書作成 12月

事業の成果

前年度において、独自に作成したアンケート方式の調査票をもとに、旅行者等から 125 のサンプルデータを集め、その結果をもとに SAPA を利用する上でのバリア等についての調査項目や課題をとりまとめたが、一定のデータが集まったことで、今年度に入り 9 月、近畿エリアの現地調査を行う際のポイントをまとめることができた。

実施調査においては、現地での協力者も含め 10 名規模のメンバーとなり、車いすユーザーやその家族、支援者、介護事業者、教育関係者などその属性も多岐にわたった。2 日間の中で 18 か所の SAPA を訪問し、調査項目に沿ったチェックのほか、各々が気づいた点もまとめた。

また、10 月に千葉市内で行われた当法人主催のフォーラム「車いすでもだいじょうぶ！みんなで考える“ゆめ旅”プラン♪」の基調講演として「トラベルヘルパーの視点からみたサービスエリア・パーキングエリア調査」と題した報告を行ったほか、パネルディスカッション「ゆめ旅を叶える処方せん～ これを知っていれば車いすでもだいじょうぶ！」でも、調査に参加した車いすユーザーがパネラーとして登壇し、調査時に気づいた点や今後の課題点なども披露した。このフォーラムの内容及び、会場からの問題定期等も、この事業の成果として報告書等にまとめている。なお、同日開催として当法人の学生委員が企画した「学生企画☆ボッチャで一步！車いす1万人プロジェクト」も実施した。台風の影響で当初予定の参加者数を下回ったものの、フォーラムとの相乗効果

もあり延べ100名が参加した。

■ 成果の広報、公表

実地調査の記録については、行程、調査施設、調査の目的とポイント、調査結果や課題点等々を、膨大な現地写真とともに整理し50ページに及ぶスライド資料として残すことができた。これら資料は今後もアップデートを重ねながら、啓発や発表の場のツールとして活用していきたい。

また、この実地調査を含め、昨年度から実施してきた一連の事業、前述のフォーラムの成果・結果については、「トラベルヘルパーの視点からみたサービスエリア・パーキングエリア調査（提言集）」としてまとめることができた。この提言集はSAPA事業者をはじめとする関係者にもご覧いただき、ユニバーサルな観点からのSAPAの一層の改善に少しでも役立てていただければと願っている。

■ 今後の展開

オリンピック・パラリンピックの実施年を迎え、当法人の活動も大きな節目を迎えているが、諸々の活動の主目的は、その成果をのちのレガシーとして活用していくことであり、そのための継続的な取り組みが望まれる。本事業によって培われた調査方法や成果、人材のネットワーク等をオリンピック・パラリンピック実施時の観戦サポートにとどまらない、長期的な取り組みとして継続的な調査、啓発や研修の場づくり、ガイドブック化等々につなげていきたいと考えており、いくつかの取り組みを始めているところである。